

〔万葉古代学研究彙報〕

平成二十三年度

- 二月 四日 万葉文化館主催の「新春万葉かるた大会」において、竹本晃主任研究員（以下、竹本研究員と略す）と小倉久美子研究員が審判長を務める。
- 二月 五日 桜井市観光協会主催の「万葉のふるさとさくららい」講座（会場：桜井市立図書館）において、井上さやか主任研究員（以下、井上研究員と略す）が「水辺の万葉歌」と題して講演。
- 二月 六日 奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」（第十四回）を講義。
- 二月 一日 第五〇回研究所講座で、宇多喜代子氏（俳人・現代俳句協会会長）が「俳句の現代と俳句の可能性」と題して講演。
- 二月 一三日 友の会共催講座「古事記をよむ」で、寺川真知夫研究所長が「天孫降臨(1) 国譲の交渉(1)」を講義。
奈良県立大学において、竹本研究員が「地域創造学特別講義Ⅱ―日本古代史研究―」の定期試験を実施。
- 二月 一九日 「日本風景街道シンポジウム」に奈良―歴史でつなぐ大和へのみち―で小倉研究員が歴史体感ツアーの講話・引率講師を務める。
- 二月 二〇日 友の会共催「万葉集をよむ」で、竹本研究員が「巻二の世界（下）二二三―二二七番歌」を講義。
- 二月 二五日 万葉文化館ボランティア研修会において、井上研究員が「万葉集の基礎知識」について講義。
- 二月 二六日 万葉文化館ボランティア研修の実地研修Ⅱにおいて、竹本研究員と小倉研究員が実地研修の講師を務める。
- 三月 三日 かぎろひコミュニケーション主催の講座（会場：桜井市木材振興センター）で、井上研究員が「万葉の磐余―“心の系譜”で読み解く―」と題して講演。
- 三月 四日 第五一回研究所講座（友の会と共催）で、佐佐木幸綱氏（歌人・早稲田大学名誉教授）が「旅の歌」と題して講演。
- 三月 二一日 第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学の地平―」（代表：寺川真知夫万葉古代学研究所長・同志社女子大学特任教授）の第六回共同研究会を開催。阿部一東洋学園大学教授が「古代日本の歴代遷宮と家族システム」を報告。その後、河内飛鳥を踏

査し、デイスカッション。

三月二三日 第六回委託共同研究「『万葉集』と歌木簡―東アジアにおける詩歌の場と記録メディアの展開―」（代表・多田伊織皇學館大学講師・研究員）の第四回共同研究会を開催。

三月二五日 『万葉古代学研究所年報』第一〇号（一〇周年記念号）を発行。

宮崎日々新聞社の『古事記』一三〇〇年に関わる取材に、井上研究員が対応。

三月二七日 「風景街道「伊勢街道」東国への旅・初瀬〜宇陀を歩く」において、竹本研究員が「古代における初瀬・宇陀の位置づけ」と題して講演。

三月二八日 奈良県主催「第三回NARA万葉世界賞」の贈呈式を実施。授賞記念講演として、エドウィン・クランストン氏（ハーバード大学教授）が、「夜具多知・世具多知…万葉歌人の過去へのあこがれ」と題して講演。特別講演として、同賞審査員である五木寛之氏（作家）が、「歌の力」と題して講演。

三月二九日 友の会共催講座「万葉集をよむ」で、小倉研究員が「巻二の世界（下）二二八〜二三四番歌」を講義。

三月三〇日 東京都中央区主催（会場：奈良まほろば館）の文学

講座で、井上研究員が「天武天皇と飛鳥―記紀万葉から見えるもの―」を講演。

三月三二日 財団法人奈良県万葉文化振興財団が解散。

平成二十四年度

四月一日 奈良県立万葉文化館が県直営施設となる。奈良県立万葉文化館企画普及課万葉古代学係に、井上さやか主任研究員、竹本晃主任研究員（以下、研究員と略す）、小倉久美子主任技師（以下、技師と略す）が着任。

テレビマンユニオン「遠くへ行きたい」の取材に、井上研究員が対応。

四月八日 宮崎市長の館内視察において、竹本研究員が解説。
四月一〇日 テレビ番組「遠くへ行きたい」古事記片手に大和路幻想〜（旅人…宮本亜門氏）の撮影に、井上研究員が対応（五月一三日放送、平成二五年一月三日再放送）。

四月一三日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義I―万葉文化論―」（第一回）を講義。

四月一四日 友の会主催「記紀万葉ウォーク③ 鹿と大仏だけではない奈良の名所へ」で、井上研究員が引率講師を務

める。

四月一六日 友の会共催講座「万葉集をよむ」で、小倉技師が「巻三の世界（上）二三五〜二四四番歌」を講義。

四月二〇日 奈良県高齢者大学OB会主催の講座で、井上研究員が「古事記と万葉集―飛鳥を中心に―」を講演。

奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第二回）を講義。

四月二二日 第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学の地平―」の第七回共同研究会を開催。寺川真知夫同志社女子大学特任教授が「石と巨木の飛鳥」を報告。また、第一年次の研究状況の報告と、今年度の計画および実施予定日程などについてディスカッション。

四月二七日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第三回）を講義。

四月二八日 奈良県ならの魅力創造課発行『なら記紀・万葉名所図会―古事記子ども編』の取材に、井上研究員が対応。

五月 六日 特別講演会「日本の始原を問う―万葉古代学をめぐる―」を実施。中西進氏（万葉文化館名誉館長・富山県立高志の国文学館長）が「ユーラシア大陸と

万葉集」、寺川真知夫氏（元万葉古代学研究所長・同志社女子大学特任教授）が「嫉妬と嘆き―記紀万葉のイワノヒメ―」、上野誠氏（元万葉古代学研究所副所長・奈良大学教授）が「原罪と原恩―万葉びとの思惟から―」と題して講演。

第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学の地平―」の第八回研究会を開催。特別講演会を聴講し、その後ディスカッション。

五月一日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第四回）を講義。

五月八日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第五回）を講義。

五月二一日 友の会共催講座「万葉集をよむ」で、竹本研究員が「巻三の世界（上）二四五〜二五六番歌」を講義。

五月二五日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第六回）を講義。

五月三一日 シンガポールのローヤン・セカンダリースクール教育旅行で、小倉技師が万葉集ミニ講座の講師を務める。

六月 一日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第七回）を講義。

- 六月 二日 友の会主催「記紀万葉ウォーク④ 国中の要衝 田原
本周辺を歩く」で、竹本研究員が引率講師を務める。
- 六月 七日 奈良県地域産業課からの調査依頼に基づき、海石榴
市の概要についてのレクチャーを竹本研究員が対
応。
- 六月 八日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学
特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第八回）を講義。
- 六月一五日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学
特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第九回）を講義。
- 六月一六日 万葉文化館万葉講演会「日本画家森田りえ子に聞く」
において、井上研究員が森田りえ子氏（日本画家）
と対談。
- 六月一七日 よみうり文化センター主催の古事記一三〇〇年記念
講座（会場…よみうり文化センター京都校）におい
て、井上研究員が「『古事記』の中の神々」を講演。
- 六月一八日 友の会共催講座「万葉集をよむ」で、井上研究員が
「卷三の世界（上）二五七〜二六六番歌」を講義。
- 六月二二日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学
特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一〇回）を講義。
- 六月二四日 うるわしの桜井をつくる会主催の公開シンポジウム
（会場・桜井市立図書館）において、井上研究員が
- 六月二九日 「万葉恋歌」を講演。
- 六月二九日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学
特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一一回）を講義。
- 七月 一日 美夫君志会全国大会（会場…中京大学ヤマテホール）
で、竹本研究員が「あさなぎ木簡の書記者」と題し
て研究発表。
- 七月 六日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学
特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一二回）を講義。
- 七月一三日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学
特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一三回）を講義。
- 七月一五日 第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学
の地平―」の第九回研究会を開催。明日香村内を踏
査し、ディスカッション。
- 七月一六日 第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学
の地平―」の第十回研究会を開催。小倉技師が「歌
銘にみる万葉歌の享受」を報告。招聘講師として相

原嘉之明日香村教育委員会文化財課調整員が「7世紀前半の飛鳥の景観」について講義。

奈良県河川課主催「山の日・川の日」ウォークイベントにおいて、井上研究員が明日香川周辺をめぐるウォーキングの引率講師を務め、「川の万葉集を廻る」と題して講演。

七月一七日 聶友軍奈良県海外技術研修員が着任。

七月二〇日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一四回）を講義。

七月二三日 友の会共催講座「万葉集をよむ」で、小倉技師が「巻三の世界（上）二六七〜二七八番歌」を講義。

七月二五日 森林整備課主催の「記紀万葉鳥の絵画コンクール（一次審査）の審査員を、井上研究員が務める。

七月二六日 奈良県記紀・万葉プロジェクト推進チーム会議に、井上研究員が出席。

七月二七日 夏休み子ども万葉教室で、竹本研究員が講師をつとめる。

JTB社員研修のための万葉文化館講座において、井上研究員が講師を務める。

七月二八日 夏休み子ども万葉教室で、小倉技師が講師を務める。

七月三〇日 来館した早稲田実業学校中等部生徒の卒業研究の指

導を、小倉技師が務める。

八月三日 奈良県立大学において、井上研究員が「地域創造学特別講義Ⅰ―万葉文化論―」（第一五回）を実施。

八月五日 第五二回万葉古代学講座で、竹本研究員が「『古事記』の編纂と古代氏族」を講義。

八月九日 千葉大学文学部兼岡准教授一行の来館に際して、井上研究員が館内を案内。

八月一九日 第一七回万葉古代学東京講座で、小倉技師が「平安時代の万葉集」と題して講演。

八月二〇日 友の会共催講座「万葉集をよむ」で、竹本研究員が「巻三の世界（上）二七九〜二八八番歌」を講義。

八月二四〜二六日 奈良女子大学古代学学術研究センターと共催で、二〇二二年度若手研究者支援研修プログラム「古代日本語と『古事記』」を開催。二五日に万葉文化館企画展示室において、公開講演会として「古事記の構想―天照大御神と鏡を中心に―」毛利正守氏（皇學館大学教授）、「古事記はよめたか―万葉人は古事記をどうよんだのか―」奥村悦三氏（奈良女子大学教授）、「『古事記』歌謡のことば」山口佳紀（聖心女子大学名誉教授）を、その後、内田賢徳氏（京都大学名誉教授）を司会に、毛利氏、奥村氏、山口

氏らによる公開シンポジウムを実施。二四日は奈良女子大学で万葉語学文学研究会共催の研究発表会、二六日は臨地研修が実施された。

八月三〇日 トップツアー(佛)教育旅行担当者研修会で、小倉技師が万葉集ミニ講座の講師を務める。

九月 四日 NHK奈良放送局六十周年記念番組の取材に、井上研究員が対応。

九月 六日 (株)動輪の「近鉄プロファイル」DVDコンテンツの撮影取材に、井上研究員が対応(十一月二八日発売)。

九月 八日 美夫君志会ゼミナール(会場：名古屋市かう楽)において、井上研究員が「巻七の分類意識と叙景表現」と題して研究発表。

九月 一一日 船宿寺からの依頼に基づき、葛城地域の漢詩集について、井上研究員・竹本研究員がレクチャー。

九月 一二日 天下一市民交流機構主催の「のべおか天下一薪能・能楽講座」(会場：延岡市市民協働まちづくりセンター)において、井上研究員が「能『岩船』と龍の表象」と題して講演。

九月 一八日 古都飛鳥保存財団主催の「飛鳥版科挙」(飛鳥学冠位叙任試験)の問題作成委員会に、井上研究員が出席。

九月 二〇日 森林整備課主催の「記紀万葉の鳥絵画コンクール」

の対象学校別事前学習会において、井上研究員が講師を務める。

九月 二二日 友の会主催「記紀万葉ウォーク⑤水の郷 吉野宮滝を巡る」で、竹本研究員が引率講師を務める。

九月 二四日 友の会共催講座「万葉集をよむ」で、井上研究員が「巻三の世界(上) 二八九〜二九九番歌」を講義。

九月 二八日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」(第一回)を講義。

九月 二九日 第九回公開シンポジウム「声から文字へ―木簡に記された詩歌と古代東アジアの詩歌の場―」を開催。多田伊織氏(国際日本文化研究センター客員准教授)研究代表による第六回委託共同研究「『万葉集』と歌木簡―東アジアにおける詩歌の場と記録メディアの展開」(平成二二・二三年度実施)の成果報告として実施。中山悟万葉文化館長による開催挨拶の後、基調講演として「安騎野の「かぎろひ」和田萃氏(京都教育大学名誉教授)、報告として「歌木簡の可能性と限界―『万葉集』への道程」渡部亮一氏(立命館大学兼任講師/佛教大学兼任講師)、「木簡の歌と歌語り」遠藤慶太氏(皇學館大学准教授)、「うたとふみ―木簡に記されるテキスト」多田伊織氏、

「地方官衙と歌木簡」竹内亮氏（大阪市立大学都市文化研究センター研究員）が報告された。その後、同メンバーによる「パネルディスカッション」も実施された。

特別展「よみがえる！飛鳥の技・万葉美の競演」

（会期：九月二九～十一月二七日）を実施。飛鳥池

工房遺跡関連展示を担当。

井上研究員と竹本研究員が、特別展についてギャラリートークを実施。

九月三〇日 ワークショップ「歌木簡をつくる」（2回実施）で、

竹本研究員が木簡について解説。

一〇月 四日 高森町歴史民俗資料館の研修視察において、竹本研

究員が飛鳥池工房遺跡について解説。

一〇月 五日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の

文学と奈良文化」（第二回）を講義。

一〇月 六日 ワークショップ「歌木簡をつくる」（2回実施）で、

竹本研究員が木簡について解説。

歴史街道・近鉄文化サロン・万葉文化館連携リレー

講座「記紀・万葉の飛鳥をひもとく」（会場：近鉄

文化サロン阿倍野）で、小倉技師が「飛鳥に生きた

人々の実情」と題して講演。

一〇月 七日 第四回主宰共同研究「飛鳥からの発信―万葉古代学

の地平―」の第一回研究会において、竹本研究員

が「雷の丘の上にあるもの」を報告、中西進氏（万

葉文化館名誉館長・高志の国文学館館長）が「天武

天皇の王権」について講義。

特別展「よみがえる！飛鳥の技・万葉美の競演」に

ついて、小倉技師がギャラリートークを実施。

一〇月二日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の

文学と奈良文化」（第三回）を講義。

一〇月五日 友の会共催講座「万葉集をよむ」で、小倉技師が「巻

三の世界（上）三〇〇～三〇九番歌」を講義。

一〇月九日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の

文学と奈良文化」（第四回）を講義。

一〇月二日 科学研究費補助金・基盤研究（C）「経典目録より

みた古代国家の宗教編成策に関する多面的研究」

（研究代表者 中林隆之）の平成二四年度第二回研究

会で、竹本研究員が「山田寺の経典貸借目録につい

て」と題して研究発表。

一〇月二八日 特別展「よみがえる！飛鳥の技・万葉美の競演」

について、井上研究員がギャラリートークを実施。

一〇月二九日 ユネスコ「ESD（持続発展教育）の一〇年」歴史

- 文化遺産人材育成会議（会場：奈良教育大学）に、井上研究員が出席。
- 一月 二日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第五回）を講義。
- 一月 三日 ワークショップ「二〇〇〇年前の本づくり」で、小倉技師が講師・技術指導を務める。
- 一月 三日 倉林整備課主催の「記紀万葉の鳥絵画コンクール」の対象学校別事前学習会において、井上研究員が講師を務める。
- 一月 四日 歴史街道・近鉄文化サロン・万葉文化館連携リレー講座「記紀・万葉の飛鳥をひもとく」（会場：近鉄文化サロン阿倍野）で、竹本研究員が「古代飛鳥の有名な」を講演。
- 一月 四日 第五三回万葉古代学講座および、明日香村文化協会・奈良県立万葉文化館共催「文学講座」として、井上研究員が「『古事記』のことばと世界観」を講演。
- 一月 六日 奈良芸術短期大学主催の明日香学講座で、井上研究員が「明日香（飛鳥）と万葉集（一）」を講義。
- 一月 九日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第六回）を講義。
- 一月 一〇日 ワークショップ「二〇〇〇年前の本づくり」で、小倉技師が講師・技術指導を務める。
- 一月 一日 明日香村文化協会・奈良県立万葉文化館共催「文学講座」で、竹本研究員が「『古事記』（基礎編）―下巻を中心に―」を講演。
- 一月 二三日 奈良芸術短期大学主催の明日香学講座で、井上研究員が「明日香（飛鳥）と万葉集（一）」を講義。
- 一月 二六日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第七回）を講義。
- 一月 二七日 ワークショップ「富本銭をつくろう」（一日二回実施）で、竹本研究員が富本銭について解説。
- 一月 二七日 友の会主催「記紀万葉ウォーク⑥ 秋色の葛城古道をゆく」で、小倉技師が引率講師を務める。
- 一月 二七日 災害から文化財を守る会主催の「第一六回地震・火災フォーラム「大和郡山から歴史の風が吹く―言葉の葉遺産」の魅力を語ろう―」（会場：イオンモール大和郡山イオンホール）において、井上研究員がパネルディスカッションに参加。「古事記・日本書紀・万葉集のなかの災害」について報告し、篠田正浩氏（映画監督）、橋本弘隆氏（大和郡山市古事記一三〇〇年紀事業実行委員長）、松村恵司氏（奈良

文化財研究所長)、コーディネーターの土岐憲三氏
(NPO災害から文化財を守る会理事長/立命館大
学教授)らとディスカッション。

一月二八日 万葉文化館特別講演会、および奈良県「記紀・万葉
リレートーク」の一環として、宮本亜門氏(演出家)
と井上研究員による対談「古代の物語の不思議と魅
力」を実施。

特別展「よみがえる!飛鳥の技 万葉美の競演」につ
いて、竹本研究員がギャラリートークを実施。

一月一九日 友の会共催「万葉集をよむ」で、竹本研究員が「巻
三の世界(上)三一〇〜三一六番歌」を講義。

一月二〇日 奈良ゾンタクラブ主催の飛鳥踏査において、井上研
究員が「飛鳥と万葉集」について講義。

一月二五日 明日香村文化協会共催「文学講座」で、小倉技師が
「古事記(基礎編)―近世の『古事記』研究を中心
に―」を講義。

一月三〇日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の
文学と奈良文化」(第八回)を講義。

二月一日 企画展「万葉集を掘る―古代のことばとイメージネー
ション―」を開催(会期:二月一日〜二〇一三年
一月二七日)。

歴史街道・近鉄文化サロン・万葉文化館連携リレ
ー講座「記紀・万葉の飛鳥をひもとく」(会場:近鉄
文化サロン阿倍野)で、井上研究員が「国際都市・
飛鳥とやまとうた」と題して講演。

二月二日 奈良大学・古都飛鳥保存財団連携ウォークイベン
ト
「記紀万葉の飛鳥を歩く〜万葉人に思いを馳せて
〜」において、井上研究員が上野誠氏(奈良大学教
授)とともに引率講師を務める。

二月七日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の
文学と奈良文化」(第九回)を講義。

二月八日 第五四回万葉古代学講座で、小倉技師が「日本古代
の死と歌―大御葬歌を考える―」と題して講演。

企画展「万葉集を掘る―古代のことばとイメージネー
ション―」について、井上研究員がギャラリートー
クを実施。

二月二四日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の
文学と奈良文化」(第十回)を講義。

二月二五日 万葉文化館ガイドボランティアおよびサポーターを
対象としたスキルアップ研修会で、小倉技師が講師
を務める。

国営飛鳥歴史公園・飛鳥里山クラブ主催のフォロー

アップ研修で、井上研究員が「土地の持つ力―飛鳥と万葉集―」と題して講演。

一月二七日 友の会共催講座「万葉集をよむ」で、井上研究員が「巻三の世界(上) 三一七〜三二五番歌」を講義。

一月二七日 第七回委託共同研究「伎楽面・舞楽面・能面・狂言面の比較研究」(研究代表者:見市泰男氏・京都嵯峨芸術大学大学院非常勤講師/能面打師)の第一回共同研究会を開催。

一月二〇日 NPO法人寧楽・平城・奈良主催の「『記紀・万葉』フォトコンテスト 大和一〇〇選」の受賞作品を対象に、井上研究員と竹本研究員が写真に該当する万葉歌の選定員をつとめる。

一月二一日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「万葉の文学と奈良文化」(第十一回)を講義。

一月二二日 桜井市観光協会主催の「万葉講座とサイクリング」において、井上研究員が「万葉講座 人麻呂歌に詠まれた桜井市」を講演。

一月二三日 美夫君志会一月例会(会場:中京大学ヤマテホール)において、小倉技師が「殯宮挽歌の形成と衰退―大化薄葬令の再検討を通して―」と題して研究発表、井上研究員が「飛鳥の万葉」シンポジウムの報告者

およびコーディネーターを務める。

一月二四日 万葉文化館友の会主催の講座で、聶友軍海外研修員が「チェンバレン『英訳古事記序説』」を講義、その後、井上研究員、竹本研究員、小倉技師による鼎談「企画展『万葉集を掘る』を語る」を実施。

一月二五日 聶友軍海外研修員が離任。

一月二一日 友の会共催講座「万葉集をよむ」で、小倉技師が「巻三の世界(上) 三二六〜三三七番歌」を講義。

一月二三日 奈良県立大学主催「やまとまほろば学講座」において、井上研究員が「奈良の文化―古事記・日本書紀・万葉集から―」と題して講義。

一月二五日 奈良県立医科大学において、井上研究員が「古典文学にみえる病氣と治療」と題して特別講義の講師を務める。その後、「万葉の文学と奈良文化」(第十二回)を講義。

一月二六日 第一八回東京講座として、東京都の奈良まほろば館で竹本研究員が「最近の歌木簡事情」を講演。

一月二七日 奈良市主催の中部公民館講座において、井上研究員が「古事記と万葉集」と題して講演。

※肩書き・題目などは、すべて当時のもの。

◆専任研究員のおもな業績（平成二十四年二月～平成二十五年一月）

井上さやか

〔著書〕

- 『万葉集からみる「世界」』（新典社新書59）新典社、平成二十四年七月

〔研究論文〕

- 「文化の総体としての文学―季節表現と題画詠を例に―」（『万葉古代学研究所年報』一〇号）平成二十四年三月
- 「万葉文化館蔵「伝江南院龍霄筆切」について」分担執筆（『万葉古代学研究所年報』一〇号）平成二十四年三月
- 「「関山月」の和化―『万葉集』における旅の一視点―」（『大学教育出版編集部編『旅のはじまりと文化の生成』』大学教育出版、平成二十五年一月

〔研究発表〕

- 「巻七の分類意識と叙景表現」（『美夫君志会ゼミナール』平成二十四年九月
- 掛け合いシンポジウム「飛鳥の万葉」（『美夫君志会一月例会』平成二十五年一月

〔その他〕

- 新刊紹介「森浩一氏著『萬葉集に歴史を読む』（『美夫君志』八三号）、平成二十四年一月
- 「万葉の磐余―“心の系譜”で読み解く―」（『大和路小誌』やまとみち）一二二号）東海旅客鉄道（株）、平成二十四年三月
- 「記紀に親しむ 第6回 恋多き天皇」（『県民だより奈良』三月号〔第三〇九号〕、奈良県広報広聴課）、平成二十四年三月
- 「相聞」「大伴旅人」「山上憶良」「山部赤人」「大伴坂上郎女」「大伴家持」（『GB編』『万葉集 歌の力』）徳間書店、平成二十四年五月
- 「ヒトコトヌシ」『古事記 日本書紀に出てくる謎の神々』（『新人物文庫』33）新人物往来社、平成二十四年七月
- 「万葉集を訪ねて 第8回 明日香川」（『県民だより奈良』八月号〔第三二四号〕、奈良県広報広聴課）、平成二十四年八月
- 「おすすめ万葉歌」（『よろずは』平成二十四年八月、平成二十四年十一月）
- 「万葉歌の魅力をさぐる（26） 天地の底ひのうら」（『企画展 万葉集を掘る―古代のことばとイメージーション―』）（『天飛ぶ』三四号、万葉文化館友の会）、平成二十四年十一月

竹本 晃

〔研究論文〕

- 「石見相聞歌における「妹」の視界」（『万葉古代学研究所年報』一〇号）、平成二十四年三月

- 「都に通うも旅」（大学教育出版編集部編『旅のはじまりと文化の生成』）大学教育出版、平成二十五年一月

〔研究報告〕

- 「あさなぎ木簡の書記者」（美夫君志会全国大会）平成二十四年七月
- 〔その他〕

- 「古代の漢字」（奈良県立教育研究所編『平成23年度学校教育番組「国語教材」』）平成二十四年三月

- 「万葉集を訪ねて 第6回 泊瀬川の歌」（県民だより奈良 四月号〔第三一〇号〕、奈良県広報聴課）、平成二十四年四月

- 「万葉びとの衣・食・住の歌」「高市黒人」「高橋虫麻呂」「雑歌―宮廷歌謡から旅の歌まで―」（GB編『万葉集 歌の力』徳間書店）、平成二十四年五月

- 「記紀に親しむ 第8回 速総別王と女鳥王」（県民だより奈良 七月号〔第三一三三号〕、奈良県広報聴課）、平成二十四年七月

- 「記紀に親しむ 第9回 袁祢命と平群の志篁」（県民だより奈良 九月号〔第三二五号〕、奈良県広報聴課）、平成二十四年九月

- 「万葉集を訪ねて 第9回 飛鳥諸宮」（県民だより奈良 一〇月号

〔第三一六号〕、奈良県広報聴課）、平成二十四年一〇月

- 「よろずは」平成二十四年十月号、平成二十五年一月号

- 「万葉歌の魅力をかぐる(25) 島根県は出雲だけではない！」（「天飛ぶ」三三三号、万葉文化館友の会）平成二十四年七月

小倉久美子

〔研究論文〕

- 「古代における死を悼む和歌の展開―挽歌と哀傷歌の比較検討を通して―」（『万葉古代学研究所年報』一〇号）、平成二十四年三月

- 「万葉文化館蔵「伝江南院龍霄筆切」について」分担執筆（『万葉古代学研究所年報』一〇号）、平成二十四年三月

- 「日本古代における天皇服喪の実態と展開」（『日本歴史』第七七三号）、平成二十四年十月

〔研究発表〕

- 「殯宮挽歌の形成と衰退―大化薄葬令の再検討を通して―」（美夫君志会例会）平成二十五年一月

〔その他〕

- 「万葉花の歌々」「万葉集と日本のふるさと」（GB編『万葉集 歌の力』徳間書店）平成二十四年五月

- 「歌碑めぐり」（「よろずは」平成二十四年九月号、平成二十四年十二月号）